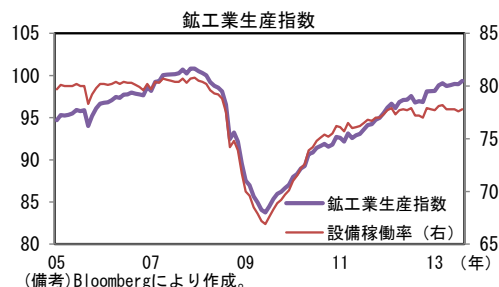
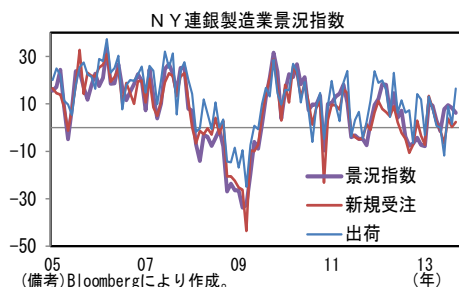


### 【海外株式市場・経済指標】 ～金融相場復活～

16日の米国株式市場、NYダウ平均株価は続伸。前日比+118.72ドルの15494.78ドルで取引を終了。サマーズ氏が候補辞退を受けて金融相場（米金利低下・米株上昇）が復活。欧州では独DAXが史上最高値更新。

9月NY連銀製造業景況指数は6.29と、前月（8.24）から小幅悪化。市場予想（9.10）も下回った。ただ、内訳をみると出荷（1.47→16.43）と新規受注（0.27→2.35）が改善しており、ヘッドラインの悪化が示すほどネガティブではない。6ヶ月先見通しは40.64と2012年4月以来の高水準まで改善している。一方で雇用（10.84→7.53）や週平均労働時間（4.82→1.08）の悪化は気掛かり。

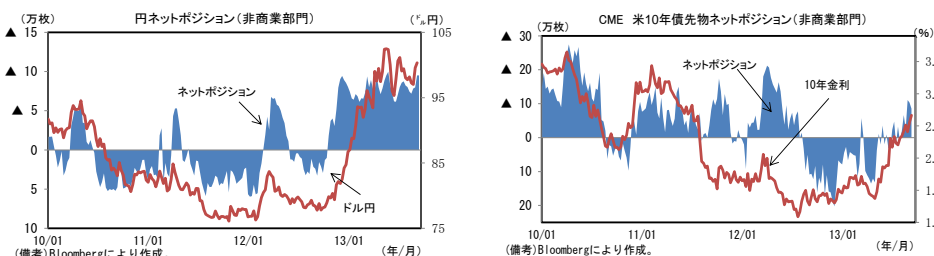
8月鉱工業生産指数は前月比+0.4%と前月（±0.0%）から加速。市場予想（+0.5%）は小幅下回ったものの設備稼働率（77.6%→77.8%）は改善しており、悪い内容ではない。



## 【外国為替相場・債券市場】 ～サマーズポジションのアンwind～

13-17日の海外市場はドルが全面安。サマーズ氏候補辞退の報道を受けてTapering・利上げ前倒し観測が後退。ドル円は16日オセアニア時間に下落した後は日本市場が休場だったこともあり、小動きに終始。その後、欧米時間に入るとやや買い戻し優勢となった。資源・新興国など相対的高金利通貨ではAUDやNZDが強かったほか、IDRやBRLを除く新興国通貨の大半がドルに対して強含んだ。16日、米10年金利は2bp低下の2.86%。一時は11bp低下したが、米株高の裏で低下幅を縮小。独10年金利も4bp低下。伊10年金利は12bp低下の4.45%。重債務国の対独スプレッドはタイトニングした。

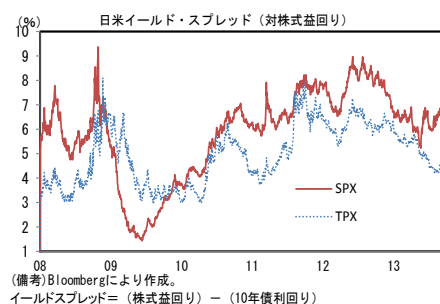
前週末発表のCFTCデータ（9/10）によると円のネットショートポジションは3週連続で増加（7.98万枚→9.51万枚）。ユーロやCHFはネットロングポジションが縮小。一方でGBP、AUD、CADはネットショートポジションが縮小した。米10年債のネットショートポジションは2週連続で縮小（10.31万枚→8.31万枚）。



## 【国内マーケット・経済指標】 ～PER上昇に期待～

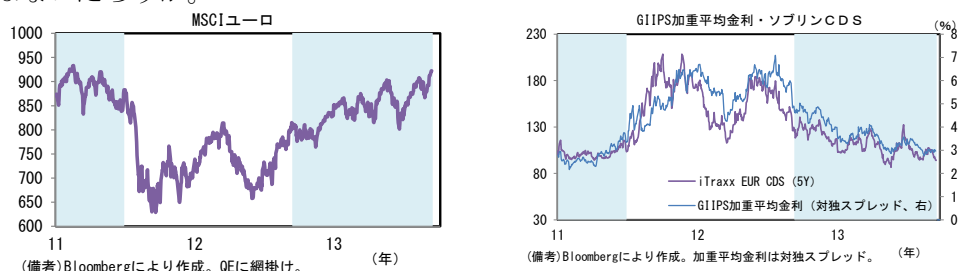
17日の東京株式市場、日経平均株価は反落。前日比▲93.00円の14311.16円で取引を終了。連休中の欧米市場は総じて強いリスク選好に傾斜したものの、前々週からのラリーの反動に加え為替円安の一服を受けて利益確定売りが優勢となった。

日米のイールドスプレッドを比較すると、日本株のリスクプレミアムが高止まりしている様子が見て取れる。これは、日10年金利の低位安定にも拘らず日本株PERが上昇していない結果と考えられる。今後、Q QE 実行下で日本株PERが上昇する余地は大きいのではないかと。



## 【注目点】 ～敢えてこのタイミングで欧州に注目～

FOMCの結果発表を明日に控えるなか、敢えてこのタイミングで筆者が触れておきたいのは欧州の金融環境だ。16日の欧州市場では、独、仏、西、愛、蘭、等で主要株価指数が年初来高値を更新した(図)。イタリア株ですら政局不安が取り沙汰されるなか、年初来高値近辺まで水準を切り上げている。過去2回のQE終了局面では、「欧米株安・米独金利低下・重債務国金利上昇」が鮮明化した。このリスクオフの主犯格が欧州債務問題であったとするならば、今次局面でその悪役は不在だ。過去2回のQE終了局面と比較して、この相違は大きいのではないだろうか。



## 【予想レンジ（5営業日以内）】

NYダウ平均株価 15100～15650ドル 日経平均株価 14000～14600円 ドル円 98.00～101.00円

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。